



## 令和2年1月27日(月)名古屋市立栄小学校にて 「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」 「くすり教室：実験講座」「薬物乱用・依存」の出前授業・Eプロを開催： 特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）と共催

名城大学薬学部では出前講義の一つとして、高齢者や小学生に「くすり」や「薬物依存」のことを知ってもらう授業や体験実験を特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構（NPO J-DO）の協力の下に行っています。今年度は名城大学 Enjoy Learning プロジェクト（通称：Eプロ）の薬学生と共に行いました。

名古屋市立栄小学校（森 久晃校長）の養護教諭 坪野正子先生のご尽力により、令和2年1月27日(月)、名古屋市立栄小学校にて「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」「くすり教室：実験講座」「薬物乱用・依存」を下記の内容にて開催しました。当日は、6年生の児童29名、保護者5名が「くすり」について学び、「(OD錠が)すぐに溶けてびっくりした」「色が変わって不思議だと思った」「くすりは正しく使うことが大切だと思った」と大好評でした。今年度Eプロとしては5回目の開催となりました。

### 名古屋市立栄小学校における「くすり教室」

日時：令和2年1月27日(月) 10時35分～11時20分

場所：名古屋市立栄小学校 ホール1

内容：

#### ・「実験を始める前のお話」：Q&A方式

くすりをどのように飲んだら良く効き、副作用を防ぐことができるか、Q&A方式で小学生が答える、児童参加型で行いました。学部5年の佐治凧帆がスライドを使って、わかりやすく説明しました。小学生は元気よく挙手して活発に問い掛けに答えてくれました。

#### ・「体験実験」

小学生は5グループ（1グループ5～6名）に分かれ、学部5年の佐治凧帆がスライドを使って、実験する目的を説明しながら保護者（5名）とともに体験実験を行いました。体験実験では、より理解できるように鍋島俊隆先生（NPO J-DO 理事長）、名城大学薬学部 野田幸裕教授（NPO J-DO 副理事長）、間宮隆吉准教授（NPO J-DO 理事）、薬学生（病態解析学Ⅰ・Eプロ4年生4名、衛生化学研究室・Eプロ5年生1名、4年生1名）が補助しました。

#### <実験項目>

1. コップ一杯の水かぬるま湯で「くすり」をのむのはなぜ？
2. 水がなくても飲める薬があるのを知ってる？
3. 「くすり」を「お茶」で飲むとどうになってしまうの？
4. 「うがいくすり」でうがいした後に、すっぱい食品を食べるとどうになってしまうの？

制作：名城大学薬学部病態解析学Ⅰ

（佐治凧帆、細井香七、野田幸裕）

衛生化学（河西初音、北澤沙英）

薬品作用学（間宮隆吉）

監修：NPO J-DO（鍋島俊隆）



## 名古屋市立栄小学校における授業

### 「乱用薬物には絶対、手を出さない！」

日時：令和2年1月27日（月）11時20分～12時20分

場所：名古屋市栄小学校 ホール1

内容

・「乱用薬物には絶対手を出さない！」：講義

どのような薬がドラッグとして乱用されているか、薬物乱用はどのように怖いのか、乱用されているくすりの正しい情報、薬物乱用者の実態、薬物乱用に対してみんなができることについて、野田幸裕教授がスライドを使用して分かりやすく説明しました。講義では、「タバコによって成長はどうなってしまおうのだろう？」についてタバコを含む水で植物を育てると成長が遅くなるということをハツカダイコンの写真を用いて示したり、なぜ害があるとわかっているにもかかわらず薬物を乱用してしまうのかについて説明しました。「お酒を飲むと脳の細胞や肝臓はどうなってしまおうのだろう？」「シンナーを吸うと体はどうなってしまおうのだろう？」については各グループにおいて薬学生によるデモ実験を行いました。児童からは「アルコール（お酒）をかけると卵の白身（脳の細胞）に白いもやもやがでてきた！」「レバーが縮んだ?!」「シンナー（アセトン）で発泡スチロール（ヒトの細胞）が溶けた！」という驚きの声が多く上がりました。危険ドラッグはもちろん、身近なお酒やタバコでも一度乱用すると止められなくなり、身体に悪い影響を与えてしまうことを講義や実験を通して学ぶことができました。

